

「未来のあきしまを描く」まちづくりワークショップ 実施報告書

1 開催概要

項目	内容
日時	令和8年6月6日（土）午後1時30分～午後3時30分
場所	イーストテラス・サブスリー 2階 202 会議室
講師	多摩大学 松本祐一 教授（経営情報学部総合研究所所長）
参加者	16歳～35歳の市民 12名及び大学生サポーター2名 （無作為抽出による1,000名への案内から参加希望者）
テーマ	「未来のあきしまを描く」まちづくりワークショップ ①訪れてみたい②住んでみたい③住み続けたいまちづくり

2 ワークショップの進め方

参加者をアッキー班・アイラン班・ちかっぱー班の3班に分け、以下の手順でグループワークを行った。

- （1）昭島市総合基本計画についての理解を深め、市の将来都市像を共有する。
- （2）昭島市の「良いところ」「残念なところ」を班内で自由に出し合う。
- （3）（1）で挙げた市の長所を「活かす」、「伸ばす」、または短所を「克服する」、「逆手に取る」、といった発想で捉え、「訪れてみたいまちづくり」「住んでみたいまちづくり」「住み続けたいまちづくり」の3つの視点からプロジェクト案を考案・命名する。
- （4）各班が考案したプロジェクトを発表し、全体で共有する。

3 班別発表内容（発表順）

（1）アイラン班

班の特徴

アットホームな雰囲気で見解が出しやすく、幅広い年代から多角的な意見が生まれた。

昭島市の良いところ・残念なところ（主な意見）

良いところ	残念なところ
水がおいしい／家賃が安い	交通手段が少なく移動が不便
自然が豊か／子育てしやすい	ごみのポイ捨て・たばこのポイ捨て
スポーツ施設・公園が充実	観光地・若者向けスポットが少ない
図書館（アキシマエシス）が充実	大きなイベントが少ない

プロジェクト提案

- ご当地グルメプロジェクト（訪れてみたい）

観光資源・知名度の低さを課題として認識。昭島の「水」と「麺」を活かしたグルメイベントの開催やグルメマップの作製により、来訪者の増加を目指す。

- **PR プロジェクト（住んでみたい）**
居住体験の発信強化、知名度の高いボードゲームへの参加による知名度向上、昭島の水のブランド化を提案。
- **罰金プロジェクト（住み続けたい）**
近年増加しているごみのポイ捨てに対し、罰則を設ける施策を提案。景観保全による安全・安心なまちづくりにつなげる。

(2) **ちかっば一班**

班の特徴

参加者の属性が多様で意見の集約に苦労しながらも、幅広い視点からの議論が実現した。

昭島市の良いところ・残念なところ（主な意見）

良いところ	残念なところ
水がおいしい／治安が良い	市役所などの施設が駅から遠い
青梅線が都心直通で便利	Aバスの遠回りが多い
航空宇宙産業の集積	新しい施設・イベント情報が届きにくい
ファミリー向け住環境が充実	プールがない

プロジェクト提案

- **拡大プロジェクト（訪れてみたい）**
SNS はアルゴリズムにより情報が届く層が限定されるため、あえて紙媒体を活用した幅広い PR を提案。
- **安全対策プロジェクト（住んでみたい）**
水・交通・地盤の安定といった既存の強みに加え、防犯カメラや街灯の拡充により、安全性をより実感できるまちづくりを提案。
- **（住み続けたいまちづくり）**
時間の制約でプロジェクト名の策定には至らなかったが、「ライフステージが変化しても継続してサービスを受けられるまち」という方向性が共有された。

(3) **アッキー班**

班の特徴

最年少から最年長まで幅広い参加者が揃い、学生にはない生活者視点の意見も活発に出された。

昭島市の良いところ・残念なところ（主な意見）

良いところ	残念なところ
水道水の水質が高く料金が安い	夜道が暗い／個人店が少ない

良いところ	残念なところ
図書館・スポーツ施設などが充実	くじらロードのシャッター街化
豊かな自然／くじら祭り	市の SNS が事務連絡中心で魅力発信が弱い
防災意識が高い	施設の老朽化 (プール、スポーツセンター)

プロジェクト提案

- **くじらプロジェクト（訪れてみたい）**
シャッター街化したくじらロードの空き店舗を低価格で貸し出し、話題性の高い店舗を誘致して集客につなげる。あわせて音楽活動の場の創出、イベント時の駐輪場確保・交通整理などの周辺環境整備も提案。
- **（住んでみたい・住み続けたい）**
昭島市はすでに住環境として十分な水準にあるとの評価で一致。ただし、夜道の暗さとプールがないことが具体的な改善点として挙げられた。

4 まとめと今後の展望

（１）若年層が共通して認識した昭島市の強み

- **水のおいしさ**
複数の班から「昭島の水」が最大の資源として挙げられた。観光・ブランド・定住促進のいずれにも活用できる資産として評価された。
- **生活インフラの充実**
交通・施設・治安など、居住環境としての基盤は概ね整っているとの評価が共通していた。

（２）共通して浮かび上がった課題

- **情報発信力の弱さ**
SNS・紙媒体問わず、市の魅力が十分に伝わっていないとの声が各班から上がった。また、すでに取り組んでいる施策について認知されておらず、周知が不十分であることも浮き彫りとなった。
- **賑わい創出の不足**
若者向けスポット・個人店・イベントが少なく、来訪・定住意欲につながりにくい現状が指摘された。
- **景観・安全環境の維持**
ごみのポイ捨てや夜道の暗さなど、日常の生活環境における課題も具体的に提起された。

（３）施策への反映方針（案）

分野	具体的な方向性
観光・賑わい	官民連携した地域の魅力発信イベント（グルメ・音楽等）の検討、シャッター街の活性化を図る
情報発信	紙媒体と SNS を効果的に使い分けた多層的な PR 戦略の構

分野	具体的な方向性
	築を図る
安全・環境	街灯・防犯カメラ整備、ポイ捨て対策の強化を図る
定住促進	昭島の水のブランドの更なる周知、ライフステージに対応したサービス充実（周知）を図る

5 参加者アンケートの回答

質問	回答
参加の理由	● まちづくりに興味があったから ● 「未来のあきしまを描く」というテーマに興味を持ったから ● 他の年代の人の意見を聴いてみたかったから ● 新しい施設「イーストテラス・サブスリー」に来てみたかったから ● 手紙が届いたから
参加して良かった点	● まちの魅力や課題を知ることができ、昭島についてさらに知りたいと思うきっかけになった。また、まちをより良くする方法や課題を克服する方法は、昭島市ならではの資源や特徴と結びつけることで、より「昭島らしい」取組にできるのではないかと感じた。 ● 同じ若者でも昭島出身や都外出身などの背景や属性によって意見が異なることを知ることができた。 ● 昭島市について、知ることが出来た。普段交流の少ない年代の方とも話すことができ、良かった。 ● 自分の住んでいる昭島について改めて考えることができて勉強になった。高校生、大学生の若い方々のご意見にも触れることができ、貴重な経験となった。 ● 様々な年代の人とお話しできた。自分の伝えたかった意見を発表できた。 ● 色々な意見が聞けた。知らなかった施設を知ることができた。
参加して悪かった点	● 要望が昭島市の予算上や権限上成立するかという観点もあっても良いと思った。 ● 人数が少なかった。 ● 「昭島らしい」取組について、当日の話し合いの中でもう少し深められたらさらに良かった。
感想	● 今後も昭島市のことを少しずつ知り自分なりにまちとの関わり方を考えていきたいです。 ● 住んでいるだけでは、昭島市について学ぶ機会がなかったため、興味を持つのにとても良いきっかけになりました。